

# JCD

## Kansai

2006.3.Vol.59



### CHANGE JCD KANSAI

#### 土栗

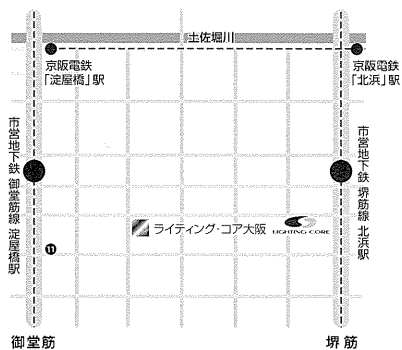
担子菌類のきのこ。初め球状で径2cm、黒褐色。外皮は厚く、後に6～12cmの裂片となり、星状に開いて地上につま立ち、菌体は地から離れる。乾燥すると裂片はまた上方に巻き球形となり、地上をころがって内皮の孔から胞子を散らす。

(広辞苑より引用)

こだわるなら、DAIKOの「あかり」



## LIGHTING CORE OSAKA NEW OPEN



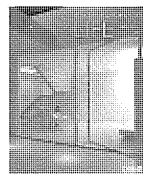
ライティングコア大阪  
Tel. (06) 6222-6224 Fax. (06) 6222-6229  
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋3-2-7 高麗橋ビル



DAIKOの  
照明総合カタログ



商業施設用照明総合カタログ  
D's PROFESSIONAL  
LIGHTING

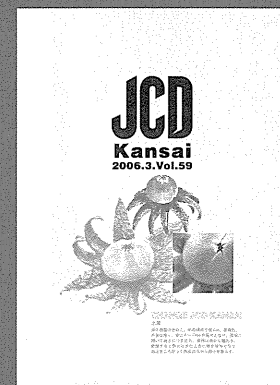


住宅用照明総合カタログ  
Stylish Lighting LIFE  
2005-2006

**DAIKO**  
Tel. (06) 6222-6250 Fax. (06) 6222-6252  
http://www.lighting-daiko.co.jp

# JCD Kansai 2006.3 Vol.59

[表紙・デザイン]  
CHENGE JCD KANSAI  
ピー・イー・テクノロジー(株)  
三宅雅夫



2006年(平成18年)3月号  
vol.59 平成18年3月発行  
発行/社団法人 日本商環境設計家協会  
関西支部  
〒559-0034  
大阪市住之江区南港北2-1-10  
ATCビル ITM棟10階A-1  
(財)大阪デザインセンター内  
Tel./Fax. 06-6613-5557

広報委員会  
指導相談役/郷力憲治  
委員長/三塚穂積  
副委員長/久保 茂 友田みのり  
岡島 昇 寺井 義和  
委員/原川公一 一色 勝美  
権藤 旭 佐藤 史仁  
桜井敬三 藤谷 明正  
山田常寿 三宅 雅夫  
平岡孝啓 長町 志穂  
目又忠文 高木茂四郎  
印刷/あいであプリンティング株式会社

社団法人 日本商環境設計家協会 関西支部  
JCD KANSAI 2006年3月 第59号

04●特別連載企画  
「これで商店街は蘇るか?」今里新橋通り商店街 総括  
岡島 昇

06●研究委員会報告  
第4回小セミナー 出口 巳幸  
商環境フォーラム2006開催  
JCDデザイン賞2005を語る「必要とはされないけれど、欲しがられるもの」——久保田博文

08●広報委員会より  
それぞれのデザイン  
私とJCD物語 寺井 義和  
EMと快適環境 友田みのり  
最近思うこと 三塚 穂積  
心に残るアジアの灯体験 長町 志穂

12●ビジョン委員会報告  
JCD関西支部HP立ち上げにむけて  
JCD関西支部ホームページについて 加藤 義行  
第97・98回コートーク in OSAKA 中尾 晋也

16●報告  
JCD関西支部活動報告  
DDA・JCD・SDA合同チャリティー絵馬展 市川 邦治  
るるぶ会 白井 進  
日本の空間のデザイン2005 久保田博文  
JCD/DAIKO連続デザインシンポジウムSECTION39 OSAKA 中尾 晋也  
クリスマスパーティ 萱野 光一

●連載  
WORKING NOW  
新入会員紹介 東 潤一郎・荒井 弘  
児玉 和之・清水 勝

●連載  
Endress Marathon Communication  
廣田 慎一



# 「これで商店街は蘇るか？」今里新橋通り商店街 総括

ほとんどの商店街が衰退の途をたどっている現在「これで商店街は蘇るか？」をテーマに今里新橋通り商店街を題材にして過去4回、今後の活性化のヒントになる提言を誌上で展開してきました。今回、いままでのさまざまな提言を活性化への6つのヒントとしてまとめ「これで商店街は蘇るのか？」の総括としたい。

## 街の魅力-1：飲み処・食べ処



## 1. 商店街に人の集まる拠点をつくる

- **銭湯をつくり地域コミュニティの拠点とする**  
立派なプランを描いても地権者の合意形成はむずかしい。唯一の可能性はタダの土地が手に入ったら、銭湯をつくりNPO法人で運営する。それが下町のコミュニティの拠点にもなる。
- **市電ミュージアム／交通博物館をつくる**  
商店街に外から人を呼ぶアイデアとして、今里には昔、市電の車庫があったことから、現状の映画館跡地のガレージとその周辺を再開発して「市電ミュージアム」を開発する。過去の市電の展示のみでなく、日常生活にとっての交通問題、次世代の公共交通の在り方を市民に発信する。

- **日替わり寄席を開催する**  
飲食店はまだまだ健在。幼いころにあった近所の食堂の「町寄席」。周辺のレトロな飲食店で日替定食よろしく「日替寄席」を開催してはどうだろう。一杯飲み交わしながら寄席に入る。笑いを求めて人が集うに違いない。

## 2. 土地のポテンシャルを活かす街の再生

- **新商業ゾーンとマンション街区への再生**  
投資家の投資意欲をかき立てさせ、街に投資をしてもらうことが重要だ。それを喚起するには商店街が組織として活動する必要がある。今後予定される地下鉄8号線の開通で上がると予想される街のポテンシャルを活かし低層部を商業、中高層住宅と複合化し、そのためにアーケードが不要ならば取り払う勇気が必要かもしれない。
- **街区を「夢」再開発へ**  
居注意欲のある街である。地下三階建て、地上三階建てを商業街区とし、さらにその上に二十階の高層集合住宅を三本のタワーとして建設する。この規模に商店街のすべての店主・店舗・オフィスや住民を入れる。以上煮詰めたものではないが、立地・敷地から妥当な「夢」と考える。

## 街の魅力-2：レトロなお店・看板



## 3. 活性化のための組織と意識

- **求心力を持つリーダーがいる事務局づくり**  
商店街の活性化には、さまざまな分野の参画が必要でありそれをまとめるリーダー、またボランティア精神のプロデューサーが必要だ。組織づくりからスタートし、活性化効果の高いものから着手する。それがスタートラインだと思う。
- **自分たちの手で活動を始めたとき**  
今里を自分の生活拠点として意識している住民がどれだけ住み働いているか分からないが、彼らがこの商店街に愛着を感じ、自分達の手でかつての賑わいを取り戻す活動を始めたとき商店街は蘇る。

- **下町スロータウン**  
地域の再生や保存、人間関係づくりなど、時間をかけてつくるという「スロータウン」という発想が必要ではないか。現在の街のあるがままを受け入れ、効率や利便性だけでなく今里の古くからの町内的なコミュニティを重視した街づくりを目指す。

## 4. 地域コミュニティとしての再生

- **今里新橋通り商店街の今後求められることは**
  - ① 地域の暮らしに根ざしていること
  - ② 地域と密接に繋がる要素を持っていること
  - ③ 地域のニーズに合致していること
  - ④ 時代のニーズに敏感であること
  - ⑤ 健全な若者と子供のいること
  - ⑥ 成熟した中高年のいること
  - ⑦ 商店街として輝いていること

- **街の「茶の間」として商店街を「笑店街」へ**  
地域の人々が楽しむことのできる、ライフスタイルの場として発展させる。街の「茶の間」としての「コミュニティセンター」というポジションを作り出すこと。街の生活の中心的空間、街の茶の間としての役割を商店街が担うことが出来れば、蘇るきっかけになるのではないかと。そして「茶の間」の中心は子供達です。そんな子供達を中心に周辺人々を巻き込みながら、超アナログな「笑店街」へ再編成する。

- **商店街の公園化＝プロムナード（散歩道）**  
車中心の都市構造の中でアーケード空間は唯一歩行者専用であり、考え次第で人にとって安心で便利な場であり使用価値の高い場となる。商店街アーケード空間を地域にとっての新たな日常、コミュニティ空間「道の公園化」へ、衰退している全国の商店街をプロムナードへ。

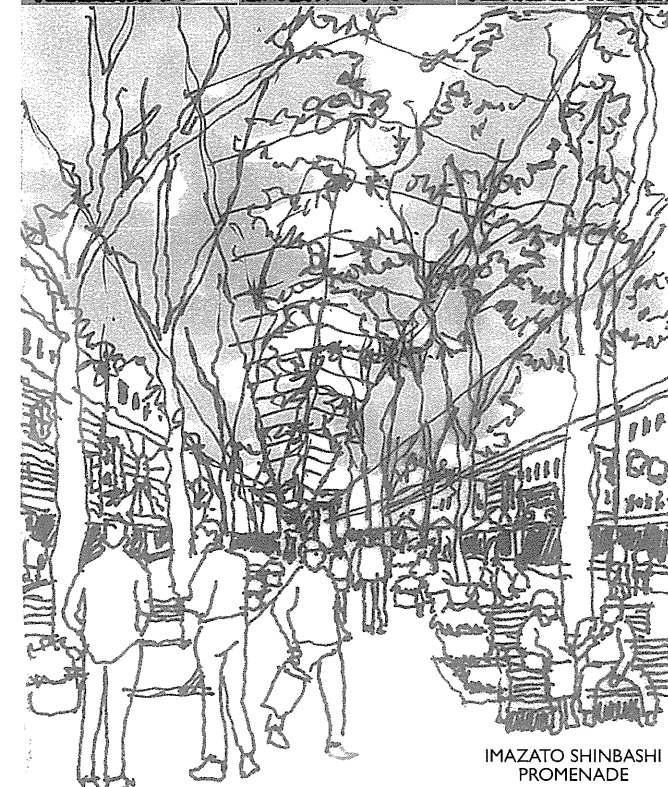
## 5. 新橋通り商店街の武器＝「レトロ」を活かす

- **「むかしながら」を活かす**  
今、生き残っている店は戦う武器をまだ持っていると思う。でも、それを忘れていたり、使い方（アピールの仕方）が分からなかったりしているだけ。なつかしの昭和30年代、今里新橋通り 商店街には驚くほど昔のままの商店が多い。「むかしながら」を武器に今一度立ち上がろう！
- **レトロな老舗・レトロな看板・レトロな食事処/飲み処**  
かつて商店街が繁盛していた頃のレトロな昭和40年代の看板が今も多く残っている。路地には居酒屋、小料理屋が集まり夜の町として情緒ある雰囲気をつくっている。この商店街は人情味に溢れレトロで懐かしい郷愁のようなものを感じる。レトロが今後の活性化へのヒントになるのではないかと。

## ■ 誌上コラボレーションを終えて ■

2003年12月15日の合同視察会以来、JCD関西55号から今回の59号まで二年半にわたり、広報委員会/誌上コラボレーションとして推進してきました。「ここまで衰退した商店街の活性化などありえるのか？」と、疑問を持ちつつ、提案することが少しでも今後の今里新橋通り商店街の活性化のヒントになればと延べ17名のJCD会員の皆様に、誌上コ

## 今里新橋通り商店街アーケード



IMAZATO SHINBASHI PROMENADE

## 6. 快適な街への改善

- **快適な街の風情を皆でつくる**  
太陽や光や風をもっとこの通りには取り込まなくてはならない。今この街に必要なのは空き店舗を埋めることではなく、この街が快適で安心して心からくつろげる街の風情を皆でつくりあげること。暗く感じる通りをもっと明るく感じさせられないものか？アーケードっているのだろうか？
- **環境モデル地区として自転車の活用**  
自動車の受け入れが出来にくい地域である。したがって自転車を街の活性化の切り札に。そのために
  - ① 自転車道の整備
  - ② 駐輪場の確保
  - ③ レンタサイクルシステムの整備
  - ④ 乗り捨てシステムの研究。
 どこの商店へも自転車で気軽に行けるように。

ラボレーションに参画いただき提言をいただきました。「まちづくり3法」改正案も今国会に提出され、中心市街地の商店街の活性化も国レベルの課題になってきています。今後さまざまな議論が活発化すると思いますが、今回で広報委員会/誌上コラボレーションは終わりとしてさせていただきます。執筆していただいた会員の方にはお礼申し上げます。 岡島 昇 記



第4回セミナーでは、昨年9月7日に再生オープンした「なにわ遊覧百貨店(心齋橋そごう)」の特徴ある集客拠点11階と12階フロアについて、藍煌房・郷力憲治氏よりご講演をいただきました。閉店後5年をかけて準備し、そのコンセプトやMDなど各種の計画づくりについての貴重なお話でした。

### 「大人の街—心齋橋筋商店街」

11階12階フロアは、心齋橋筋商店街と名付けられ、大人が好む呉服や創作趣味、和雑貨、書籍、洋品雑貨、高級文房具などのお店が揃っている。11階フロアのテーマは手ざわりのぬくもりを楽しむ「和」であり、12階のテーマはコレクターやこだわり派も納得の品揃えとなっている。MDと内装デザインは、大人の街にふさわしい主張をしている。

もともとこの2層にはロフトが入る予定であった。大阪らしくないということで、急遽、郷力氏へオファーがあり対処したとのこと。古い歴史を持つ心齋橋筋を再現させ、古き良き時代の大阪の町空間を提案し、大人の街をコンセプトにしている。

“なごみ”やこだわりのあるMDにより、効率的な回遊動線ではなく、じっくり見て周り、大人の懐かしい興奮や感動を体験し発見できるフロアとしている。

#### 11階

**心齋橋筋商店街**  
(呉服店・創作趣味の店・こだわり趣味の店・和雑貨の店)・**カスタマーセンター**  
(商品券・ミレニアムカードカウンター)・**メガネ・美容室**

手ざわりのぬくもりを楽しむ「和」をテーマにした街



#### 12階

**心齋橋筋商店街**  
(書籍・ミュージック・旅行・こだわり雑貨)・**美術**

書籍・CD・雑貨・美術、コレクター&こだわり派も納得の品揃え



そごう  
心齋橋本店  
11・12階



研究委員会主催 第三回 小セミナー  
日 時：平成17年10月17日(月)午後6時30分～  
場 所：ヤマギワ大阪 2階会議室  
講 師：藍煌房 郷力 憲治氏  
参加者：38名

### 「狙いどおり大人の客が中心」

具体的な客層は、45歳以上を設定。狙いどおりの客が来場し、若い客は mismatch を起こし、商品はもちろん買えるものではない。そごうの発想は遊びに来てもらう百貨店を目指していた。効率よりもいかに無駄な空間があることを重視し、そのため普通の百貨店より倍のコストをかけている。

通路をゆったりと確保し高い天井、昼夜照明の工夫など大人の街に仕上げ、高い店格の店舗構成とその看板に至るまで、古さにこだわった店づくりに徹している。

### 「成熟した社会での商業施設のあり方か」

オープン後順調に推移している。来場者は、まず11階12階に立ち寄り、ゆっくりと店を見て回りほんものやこだわりの買物を楽しむ。11階の寄りつきはよく、和のテナントの成績は客単価25,000円にも達している。また、客単価10万円以上のテナントもあり、高額品がよく売れている。

開業後1ヶ月間の来館客は200万人に達し、55億円の売上となっている。大人の客は他のフロアへも波及効果があり、足元の心齋橋筋の客足もよくなっている。

歴史ある大阪の筋や通りのある町空間、大正時代の心齋橋モダニズム建物などの魂を上手く演出し、現代に蘇らせたこの手法は、高齢化するこれからの成熟社会に求められる商業空間のあり方へ、大きな足跡を残すものであろう。

研究委員会 出口 巳幸

### JCDデザイン賞2005を語る

### 「必要とはされないけれど、欲しがられるもの」

今年の商環境フォーラムは中央区の高麗橋ビル1階に新装なった大光電機ショールーム「ライティング・コア大阪」に約150名の参加者を得て1月27日(金)に開催されました。毎年、公開審査により先行が行われている「JCDデザイン賞」の関係者(選考委員と受賞者)をコーディネーターやパネリストに招きデザイン賞に関連してデザイン論議を戦わせていただきました。

初めに飯島デザイン賞委員長より「JCDデザイン賞2005」の受賞作品について選考経緯も含め選考評を頂き、次いで大賞受賞作品「大阪府南警察署難波3丁目交通警察官詰所」の設計者である米正氏に作品のデザインについての解説をお願いしました。

飯島デザイン賞委員長からは、写真と作品の説明文のみの情報による現在のデザイン賞の選考方法の限界が指摘され、今日のデザイン領域の変化などに対応し、「JCDデザイン賞」の応募や審査方法を大きく改変することが報告されました。



郷力 憲治

岩本 勝也

飯島 直樹

米正 太郎

米正氏には、デザイン決定に至る経緯や大阪府警本部との調整の内幕なども含め楽しく解説をしていただきました。コンセプト的な用語が飛び交い少し難解で十分に理解できていませんが、(というより、多分、作者がどう考えたかを理解するより、作品を見てどう感じるか?)と受けて側に



**JCD商環境フォーラム2006**  
日 時：2006年1月27日(金) 18:30～21:00  
会 場：DAIKO大光電気(株)本社ショールーム  
ライティング・コア大阪  
パネリスト：飯島 直樹 (JCD理事長・デザイン賞委員長)  
岩本 勝也 (JCD正会員)  
米正 太郎 (JCDデザイン賞2005大賞受賞者)  
コーディネーター：郷力 憲治 (JCDデザイン賞委員)



投げかけられた作品のように感じました)デザインに懸ける熱意はひしひしと伝わってきました。第2部のパネルディスカッションでは、郷力氏をコーディネーターとし、パネリストには飯島氏、米正氏にJCD会員の岩本氏にも加わっていただき、テーマに沿ってデザイン論議を戦わせていただきました。

- ・クリエイティブということの意味合いが「必要とはされないけれど、欲しがられるもの」(飯島)
  - ・「無用の用」がデザイン(郷力)
  - ・「目的を具現化すること」がデザイン(岩本)
- など、デザイナーとしてのそれぞれの思いや立脚点の相違が浮き彫りとなり、大変意義深いものとなりました。公演終了後は、ドリンクパーティでにぎやかに盛り上りました。

研究委員会 久保田博文

それぞれのデザイン

私とJCD物語

寺井 義和

JCDと出会うまでいったいどのように商環境や商業に興味を持ち、そして出会ってから設計家やインテリアデザイナーでもない私が、なぜJCDとかかわり続けているのかをクロニクルとして綴っていこうと思います。

1. 入会までのクロニクル

今から約20年前、私はスキーに夢中になり、会社までやめてしまったことがありました。その当時1冊の著書と出会ったのです。その本は、浜野安宏氏の「リゾート感覚」(東急エージェンシー)でした。以来、浜野氏の著書を集めてむさぼるように読みだしたのです。そのことがきっかけで、商業にも興味を持つようになったといっても過言ではありません。

そんな中、30歳を過ぎた私を、弟のようにかわいがってくれ、安藤忠雄氏の事務所で「住吉の長屋」を実施設計された貴志氏とその友人の土井氏と現在ソフトリエーション代表の筒井氏の計らいにより、つかしの西武百貨店でスポーツアドバイザーとして働くことになりました。それが商業と本格的に関わった最初であるといえます。

そして、バブル崩壊後、ライフスタイル創造企業路線から大きく変革することとなった西武百貨店を5年間勤めた後、自分の価値観と合わなくなったことを理由に、辞めることにしたのです。

その後も、浜野氏の著書を読み続け、浜野氏のような仕事をしてみたいなどと漠然と思い描いていました。当時、浜野氏が実施していた子どものアウトドアスクールのようなことを、YMCAでの野外活動と西武百貨店でのイベント企画運営の経験を活かし、私は独力でスクールを展開し始めました。

また、著書のおかげでデザインや商業施設にも興味を持ち、デザインセンターなどに出掛けたりしているうちに、JCDの情報誌で浜野氏の記事に遭遇したのです。早速、JCD本部に連絡し、この情報誌を取り寄せたことが入会のきっかけとなったわけなのです。

しかし、なんの設計作品もない私にとって、審査が大きな障壁となりました。そこで、私自身の少ないながら商業施設と関係あるものをひっさげ、当時の支部長の山田氏とATCでお会いさせていただいたのを、今で

もはっきり覚えています。

最終的には、山田氏のご尽力のおかげで、あこがれのJCDに入会できたのでした。

2. 入会後のクロニクル

さて、なんとか入会させていただいたものの、私は商環境などの設計もしたこともなく、本当に門外漢といった言葉がぴったりな会員で、恥ずかしく思っていました。

入会後は、久保氏と神戸大丸と近鉄百貨店の屋上ガーデンを取材させていただき、1998年9月発行のVOL.44の情報誌で「今、ブーム ガーデニングまっさかり」という題で、原稿を書かせていただきました。

そして、なんとあれから今年で8年も経過してしまっただけです。今振り返ると本当に商環境を専門としない私が、8年も微妙な距離を保ちながら、関わっていることに驚かされてしまいます。

今では、私のような商環境とはほとんど無縁な人間が入っているのも面白いのかも、少し思えるようになりました。私にとって、会員の皆様と接することは、いつもすごく刺激に満ち溢れていることも一つの大きな理由です。

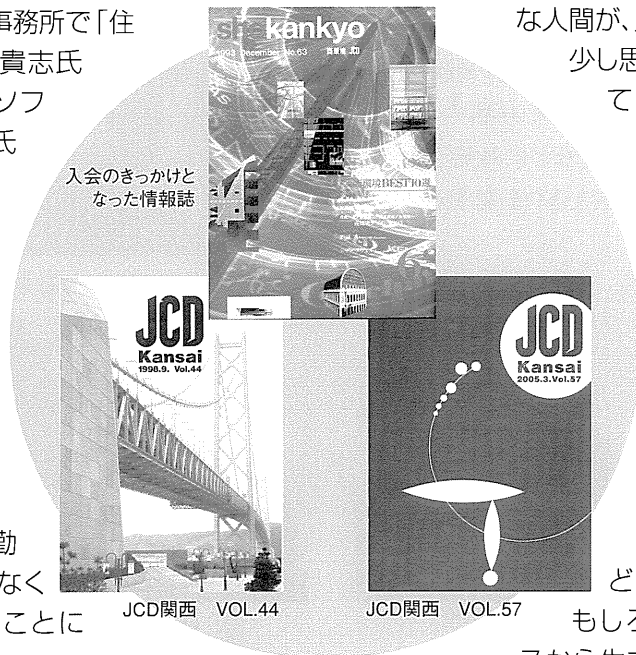
最近では、専門家の皆様からすれば、「何言うとなんねん」と、しかられそうな情報誌のVOL.57でに掲載させていただいた「笑店街」も、私にとってはたいへん思い出深い記事となりました。これは、里吉氏から「子どもの視点で書いてみるのもおもしろいのでは」といったアドバイスから生まれたものです。

このように、皆様の思いやりと暖かい励ましで、ここまで続けてこられたことに感謝し、これからも商環境とは違った視点から関わることができれば、活動する意義と意味ももっと深くなっていくのでは、と感じています。

最後に、先ほどから何度も登場している憧れの浜野氏から昨年メールをいただき、現在プロジェクトをご一緒させていただいております。

そんなうれしいニュースとともに、私が現在展開している「子どものスローライフスタイル」のWEBショップ「TUKTUK (www.tuk2.com)」をリアル店舗として、今後立ち上げたいなどと、考えています。その時には皆様ぜひ店舗づくりのアドバイス等お願いしたいと思っています。

今後ともよろしくお願いたします。



入会のきっかけとなった情報誌

JCD関西 VOL.44

JCD関西 VOL.57

EMと快適環境

友田 みのり

だんだん仕事量も減り、心にできた変な余裕と少しの仕事、を、慈しみ長らえている今日この頃。ふりかえてみれば「自然観=EM・テンネンバカボン人間」になってきている…。

複合汚染と問題のある建材

健康のために、飲み水や食べ物に気をつけ、環境を汚染しない生活をする人が増えています。しかし、住宅・オフィス・商環境・公共施設等の建築物に、まだまだ有害な化学物質が使用され、複合汚染をさせているのではないのでしょうか。特に住宅ではシックハウス症候群が問題になっているのは、周知のとおりです。

化学建材による健康被害。最近の医学界では、化学物質による健康被害は、入り口がアレルギーで、出口はガンだと言われています。有毒物質が体内に侵入してきた時、免疫系が活発に働けばアレルギーになり、免疫が弱くなるとガンになると言われています。

私達がデザイン設計し、施工される時の使用建材と化学物質の性質を、もう一度ふりかえて見たいと思います。

化学物質の性質と使用建材		
<b>ホルムアルデヒド</b> 常温では気体でホルマリンはその水溶液。目や鼻の粘膜を刺激し、皮膚障害やゼンソク、アトピーの原因となり、アレルギー促進作用がある。発ガン性もある。建築用接着剤、台板、防霉剤、防カビ剤として使用されている。	<b>有機溶剤</b> 塗料、殺虫剤、接着剤、白蟻駆除剤の成分を溶かし込み、使用後に発揮する。トルエン、キシレンなど、たくさんの種類があるが、発ガン性、中枢神経毒性、慢性毒性などがある。	<b>フタル酸エステル類 (DOP・DBP)</b> フタレートとも呼ばれる。ビニルクロスや塩化ビニールを柔らかくするために可塑剤として添加される化学物質。ビニルクロスに30~60%もふくまれ発揮する。発ガン性、生殖毒性、ホルモン異常を起こす。
<b>有機リン</b> 人や動物、昆虫の神経をマヒさせて殺す作用をもつ化学物質。毒ガスの「サリン」がルーツ。慢性中毒、神経毒、免疫異常、視覚異常、変異原性、白蟻駆除剤、屋、カーペットの防虫剤、防ダニ剤、ビニルクロスに難燃剤、可塑剤として使用される。	<b>有機塩素</b> 塩化ビニールの素材。ビニルクロス、殺虫剤、防霉剤、白蟻駆除剤などに使われる。発ガン性、ホルモン異常、生殖毒性、催奇形性。燃やすとダイオキシンを発生させる。自然界で分解されにくく生体濃縮する最もやっかいな化学物質。	<b>ビスフェノールA</b> 有機リンに代わって、安全と宣伝されて使われ始めた化学物質。神経毒性や発ガン性、変異原性がある。白蟻駆除剤、防虫剤、防ダニ剤として使用される。やっかいなのは、二オキシがなので気がつきにくいこと。

循環と共生

これらの化学物質を含む建材でつくられた建築物は、取り壊し等の廃棄される時に、ダイオキシンなどの有害物質で、土・水・空気をも汚染。そしてこの汚染物質によって生態系は破壊され、動物・魚・昆虫・微生物の生命が奪われ、巡りめぐって私達人間の生命までもが脅かされています。

元来、自然界ではあらゆる有機物が、微生物の助けを借りて分解され、ある生き物の排出物は、別の生き物の食べ物として利用されるなど、生きとして生けるもの全てが、絶え間なく循環しています。

生命が循環できる環境は、すべての生命が共に生きる世界です。一人ひとりが、循環と共生のライフスタイルを選ぶことが地球環境を守り、人々の健康と共生を誰にでも簡単に実行へと導いてくれるのが「EM」です。

EMってなに?

Effective Microorganismsの略語で有用微生物(バクテリア)の集合体。自然に生息する、人間にとって有効な微生物(乳酸菌・酵母・光合成菌・放線菌・糸状菌)など5群80種の善玉菌を集めて培養したもので、沖縄・琉球大学の比嘉輝夫教授によって発見され、開発された培養液。

EMにはこんな力があります

- 土がイキイキし、農薬や化学肥料を使わなくても作物が豊かに実るようになる。
- 抗酸化力が強いので、モノが腐ったり、病気になつたりするのを防ぐ。
- 汚染物質・有害物質を、分解する力があるので環境問題の解決に役立つ。

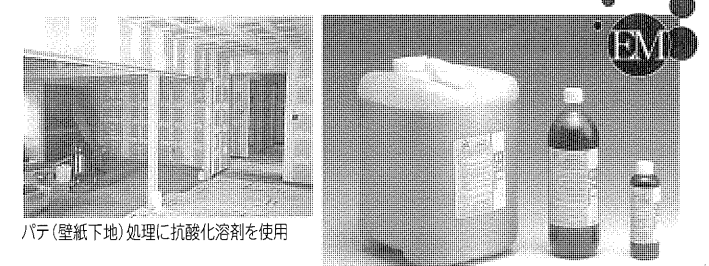
現在、世界中で注目をあび、特に農業・畜産業・水質浄化に、世界70ヶ国で応用使用されている、すばらしいものです。私達の身近な道頓堀川も実はEM団子がまかれ、とてもキレイになってきています。

EMの抗酸化力を建築分野に応用

建材に使われている、ホルムアルデヒドのような抗腐剤や、塗装・接着剤などに使われている有機溶媒はEMの生成する抗酸化物質によって、急速に分解され、無毒な状態となります。又、地球上で最も毒性が強く、最も分解が困難と言われているダイオキシンが、EM技術によって、容易に分解無毒化できることは、他の有害物質の分解はいつも簡単にと言うことに。

コンクリートにもEM活性液を混合したり、噴霧したりすることにより、強度はもちろんのこと建築現場は塵も少なく空気もキレイで、窓を締め切って作業しても塗料、接着剤などの臭気も少なく、気持ちよく作業が出来ることとです。

実際にこの工法で施工した住宅は、シックハウス症状がみられず、新築の家に引っ越しして健康になったケースも多々報告されています。今では建材や内装材にEMを応用する試みが全国ネットで広がっています。



パテ(壁紙下地)処理に抗酸化溶剤を使用

環境が悪くなったり、物質が劣化したり、病気になると言うことなどは、すべて強い酸化によるもの。

EMの不思議な超化学的と言われる現象は、そのような強い酸化を防止するだけでなく、すでに酸化してしまった酸化物質をも、波動触媒的に正常な状態に戻す力があるからです。衣・食・住をはじめ、「EM技術を日常的に応用すること」が未来社会の基盤となると比嘉照夫琉球大学教授は述べられています。

身の回りから、地球の環境浄化まで、可能にするこの素晴らしい、EMによる効果・使用法は無限にあります。さらに詳しくEMを知りたい方、HPにアクセスしてください。

- ◆(株)EM研究機構 <http://www.emro.co.jp>
- ◆参考文献「エコ・ビュー」EM環境マガジン



それぞれのデザイン

最近思うこと

三嶽 穂積

最近思うこと

この2年間でいろいろな施設が出来た。北にハービス・ヒルトンに代表される西梅田地区、南に心斎橋ごろう・堀江・難波に至る地区。街に目指すものが出来た。でも妙に違和感を覚えている。妙に疲れる。結局、落ち着く場所に探してしまう。

今後も開発計画が続き、特に北の開発はすさまじい。開発には時代の流れの中で自然発生的におきる開発と、時代を作るために強引に行う開発とがあるように感じられる。大阪地区については後者が多いようだ。人が暮らしていく中で許せる範囲の施設には**キャパの限界**があるように思う。それが街の大きさを作るのかもしれないが？

最近お気に入りの場所

ヒルトンウエスト5階 ジュンク堂  
人が少なく、明るすぎず、暗すぎず、静かな木調の落ち着いた店内。店の前にはあの大きな吹き抜け空間。息切れのする街の中で緊張感無く滞在できる場所。個人的な好みのような気もするが、今一番のお気に入りである。

最近の気になるもの

香りが気になっている。あまり意識には出てこないが、街には多くの香りがある。歩いている中で知らず知らずに影響を受けているように思う。きっと心も動かされている。匂いに関する修飾語は意外と少ないように感じる。なかなか言葉での表現が難しい。でも私の仕事にとっても重要な要素だと思えてならない。

壁面すべて裸電球のESホール

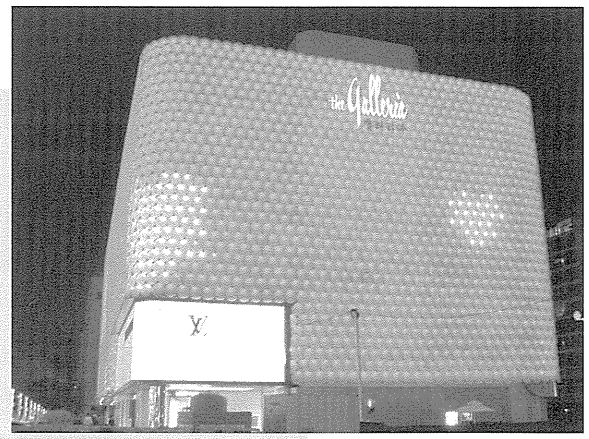


広報誌

広報誌ってムツカシイ。何のためにあるのかが微妙だ。組織のためにあるのか組織の中の個人のためにあるのか？。こんなことを思いながらもいつものように作ってしまう自分がいます。なかなか骨の折れる仕事で、変わりそうで変わらないのが広報誌かなあ。

最近の感動

この2月韓国ソウルに行ってきました。初めての韓国入りで、飛行機から見えるソウルの風景にまずビックリ！マンションだろうか、4・50階はありそうな箱の林立した風景が延々と続く。REGOを思い浮かべてしまった。ソウルの中心地、明洞は日本では渋谷のような街であるが、人の多さにまたまたビックリ！エスカレーターの昇り降りに繋がる人、人、人。こんなに活気のある街の風景は久しぶりである。街の風景は日本とあまり変わらないが、街の中にあふれるハングル文字が表音文字の特長であろうが、記号的でモダンな感じを与えている。非常にパワフルな街でデザインについてもやりきった感があり、視察のあと、妙にすがすがしい気分です。最近我々が行っているデザインとは少し質が異なるデザインに触れ、今一度自分を見直す視察となった。

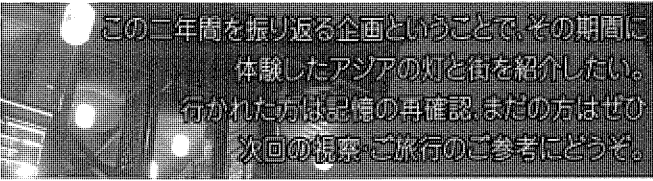


建物全面のLED照明

心に残るアジアの灯体験

光と陰の記憶

長町 志穂

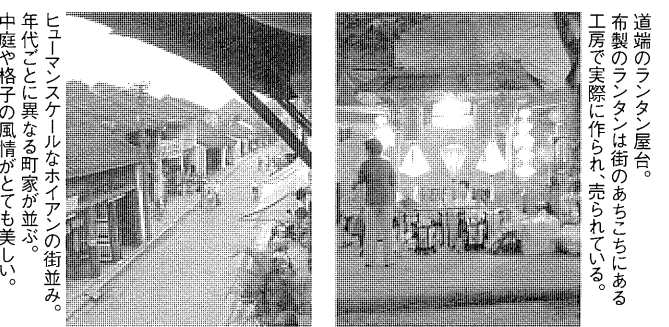


■古都ホイアンとランタンフェスティバル■

2004年の秋に、ハノイでの都市計画の視察に参加するついでにホーチミンシティ&メコンデルタ、ホイアンの各地を訪ねた。

ホイアンは細長いベトナムの中部にある古都で、うなぎの寝床状の町屋集落が特徴だ。日本の京都のような感じで、修復のために、多くの日本人研究者が関わっていることが見受けられた。

毎月、満月の日には電気を消しランタンのみで過ごすそうだが、9月末の中秋節が最も盛り上がる日で「ランタンフェスティバル」と呼ばれ観光客が押し寄せる。(といっても混雑ははしている!)



ヒュアンスケールなホイアンの街並み。年代ごとに異なる町家が並ぶ。中庭や格子の風情がとても美しい。

道端のランタン屋台。布製のランタンは街のあちこちにある工房で実際に作られ売られている。

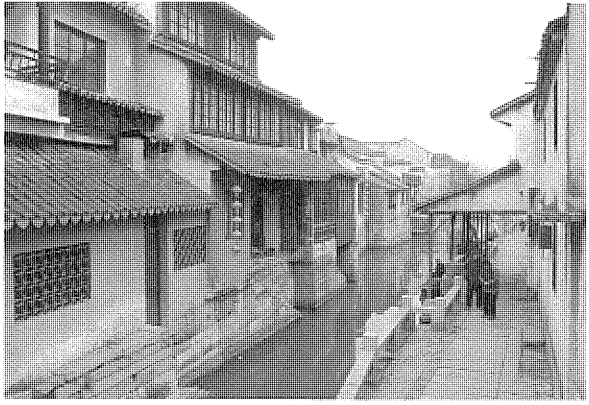


フランス統治時代のファサードを持つこのカフェは地元のスナックの社交場でもある。

街並みの保存がアカデミックな意味だけではなく、観光都市・商業都市としての価値を高めることを行政も住民も学んでいることが伝わってくる。点在するランタンの灯は、周囲の闇の中でなんともいえない「そこだけの魅力」を創っていた。

■江南古鎮 水郷集落を訪ねて■

2005年の大晦日から、中国の江南にある水郷集落をいくつか訪ねた。西塘シータンは上海から2時間ほど西へ行ったあたりの水郷で、あまり観光化されておらず普通の生活がそのまま垣間見られる。烏鎮は上海と杭州の間ぐらいで、歴史は唐の時代かららしく、宋や明の



西塘の水路。軒先には赤い小さな提灯が下げられている。蘇州やその他の観光地化された水郷でも見られる灯だが、風景をくくる役割を果たしている。

時代の建物が、戦災などにもあわず残っている。

水路に面して瓦屋根の住宅や店舗が立ち並ぶのはどちらも同じ。中国人観光客にはブームの地域だそうだが、我々から見れば、まだまだ素朴でタイムスリップして辿り着いた夢のような場所に思える。水路での洗濯の様子や、軒先で炒り豆を売っているおばあちゃんも絵になる風景。

どちらの街も、その古い街区に入るには入場券を買わなければならない。とはいえ決してテーマパークのような感じは全く無い。ゲートも無いし、ただ路地に切符チェックの人が立っているだけ。街を維持する費用をそうやって捻出するのは良いと思う。

■街の魅力 灯の力■

アジアに限らず、海外の古い街にはモノやコトを創っていくための大切な合図に溢れている。その場所ならではの空気や作法を持っているから長年の風雪に耐え



烏鎮の夜。石畳と水鏡の反射が空気の清さを演出し、灯が水路に反射して光の道になる。

うるのだとすれば、私達が今から新しく空間やモノをつくっていく上で大切に考えなければならないこともそのあたりにあるような気がする。

上海の新しい商業地「新天地」は、観光客や地元のおしゃれな人で溢れており、実際それぞれの店舗も時代の先端の魅力にことかかない。でも、新天地の素敵さを決定づけているのは、その街区が租界時代につくられたヒューマンなスケール感を持ち、そぞろ歩くのに楽しい空気と過去からの時間を感じさせることのように思う。単体の店の魅力だけではなく集合体として魅力をもつこと、場所性や固有性、時間軸で考えること、そういったことの為に灯りができることは大きい。

この2年間は、独立し照明をキーにモノから空間・街づくりまで様々なことに関ることができた。分野が様々でも大切なことは同じで、あるべきことを考察し見つけ出し、あるべき姿につくることのように思っている。闇の中にぽつんと光るランタンや提灯は、暗さがあるから暖かさを感じるという「灯の持つ素敵能力」の原点。そういう原点から学んでいきたいと思う。

# JCD関西支部HP立ち上げにむけて

今年度ビジョン委員会のメイン活動として、JCD関西支部としてのホームページを立ち上げるために、「何が必要で、そしてそのためにはどうすれば良いのか」を検討してきました。前年度の委員会活動の中心であったメールによる情報交換ではなく、毎月第3月曜日を定例委員会として活動してきました。また、開催形式については、委員会メンバー以外にもその時々に応じて、専門のアドバイザーの参画をお願いしながら推進していきました。

## 第1回 2005年5月 ~HP立ち上げの意義の確認~

新規委員会メンバーを加えての第1回会合が開催。本年度の活動内容について再確認の上、関西支部のホームページを立ち上げることの「意義」を委員会メンバーで議論し、単なる名簿掲載する形式的なものではなく、最終的には商業施設の仕事に従事する人たちの「ポータルサイト」を目指すために、今年度の活動すべき内容と、当然の事ながら「予算」「メンテナンス」等々、問題点を中心に議論していくことを確認しました。

## 第2・3回 2005年6・7月 ~全体の骨子作成、検討~

- ◇本委員会での実施内容検討
  - 立ち上げ可能な状態を作るための方向性と課題を浮き彫りにし、推進計画を策定することであり、委員会自身でHPを作成することは行わない。2006年度末までに、支部会へ答申する内容の立案を行う。
- ◇骨子の作成方法検討
  - HP立ち上げのための主な課題と思われる“コンテンツ内容の検討”、“推定予算”、“システム設計、維持してゆくためのしくみ”の3点について検討する。

## 第4・5回 2005年8・9月 ~コンテンツ内容の検討~

- 名簿的なものではなく、もっと実用的で広く活用されるHPにするためには…
- ◇仕事の役に立つ情報が取れるキッカケができる。
  - 自分の専門外のことを相談できる相手を発見したり、または自分が知っている情報をもっと他の人に知ってもらうことで業界に貢献したい、など。
- ◇JCDおよびJCD関西のことを知ってもらうことで、業界での接点を求めている若手業界従事者もしくは学生に向けての門戸を開く。
- ◇会員個人のアピールを明確に打ち出す。
- ◇賛助会員も含め、利用価値の高いコンテンツを充実させる。
- ◇業界紙に代わる存在でありたい。
  - など様々な点で、関心の高さを感じさせる、興味深い実際のアイデアや意見が活発に出されました。

## 第6・7回 2005年10・11月 ~推定予算・システム構築・維持のしくみ~

当面実施する内容について、どの程度のお金と工数が必要でどういったことを具体的に検討しなければならないかが、委員会メンバーだけでは推定できないため、専門知識をお持ちの(株)カオス 竹田代表 以下スタッフの皆様と2回打合せを実施いたしました。

- 確認事項●
  - ◇推定予算の明確化と実質工数の推定には、詳細レベルの盛り込むべき具体的内容が必要であること。
  - ◇専任の従事者(HPデザインとシステム維持)の必要性。
  - ◇ハードシステムの構築
  - ◇暗号化システムの導入
  - ◇JCD関西支部での支出可能な予算をベースに積算を依頼

## 第8・9回 2005年12・2006年1月 ~HPデモ版作成~

その他の事例検証を進めていく中で、JCD四国支部において独自のHPが立ち上げられていることが確認され、白井支部長を通じてホスティングサービス「あーいいねっ」と(有)ジーマ 門脇氏をご紹介いただきヒアリングを実施。

支部会答申に必要な推定予算と、HPを立ち上げた際のデモ版の作成を依頼し、1月末に作成完了、HP立ち上げのための推進計画の策定とHPをVISUAL化するトリガー部分までは答申することができました。

しかしながらこれを本格運用して、そしてこれが商業施設の仕事に従事する人たちの“ポータルサイト”になるためには、どのようなことを強化しなければならないかを今後は検証する必要がある、関西支部としても取り組むべき内容と思われます。

今年1年を振り返って、JCDと関わる機会・時間が増えることで、新たなものを発見することができました。このことが正会員、賛助会員そして業界で働く人々にとっての『参加しやすいJCD』そして『役にたつJCD』という姿の第一歩とビジョン委員会は考えています。

ビジョン委員会 加藤義行

# 第99回 コアトーク in OSAKA

99th 關先生とは専門学校を通じて接点を持たせていただき、何かとお世話になっております。

以前から他の機会にお話を聞かせていただいておりますが、毎回感じ得る所があります。

とにかく日々多忙で、建築以外のお仕事も精力的にこなされている中で常に「元気印」で、パワフルでかつ躍動感があり、妥協を許されない仕事のスタンスは驚きそのもので、関心いや勇気と元気をいただいております。



今回のコア・トーク in 大阪にてお会いさせていただいた際もパワーを注入していただいた気がいたしました。

建築家と言う肩書きは勿論の事、住宅から病院、福祉施設、商業施設、インテリア等、プロダクトに至るまでお仕事の幅は限りなく広く、今回のテーマである「いま、建築家がすべき役割」についても關先生のライフスタイル、人生観、お仕事のスタンスを見させていただくと十分に理解できますし、建築家＝關聡志と言う個人(人間)がすべき事柄、役割は個を超越した全人类的スタンスに移行しつつあるのではないかと、また文化活動を軸に社会に貢献し、全体から升に向けての建築、建築家のメッセージを残していられようと日々さまざまな事柄に興味をもたれ、挑戦し設計になげられているような気がいたします。

役割をになわれて建築を実践されるのではなく、現代に必要なものは何か、いま何をすべきかを、できる確立が低くとも0でないのであればすべき役割がそこに存在し、存在するだけではなく建築、設計と言うカテゴリーの中で存今後は多くの専門分野の人々に言える事だと思いますが、専門領域にとどまらず、他の分野、他の人々にいかなる恩恵と幸福が与えられるのかが、成果として評価につながるような気がいたします。

今後とも關先生には建築を通じ、私以外の多くの達にも元気の源としてご活躍していただきたいと思います。

ビジョン委員会 塚田 佳弘

## 本誌に掲載した...コアトーク in OSAKA.....

会場:大光電機ショールーム ライティングコア大阪

vol. 56 <sup>89th</sup> 2004.7.28

建築家  
西濱 浩次氏

テーマ  
「リフォーム・再生  
『創る時代から残す時代へ』」

vol. 58 <sup>95th</sup> 2005.7.22

JCD会員  
藤村 正継氏

テーマ  
「京都人の美意識とデザイン」

vol. 56 <sup>90th</sup> 2004.8.27

JCD会員  
橋本 健二氏

テーマ  
「健二と心象~設計を通しての  
日々の思い、考え方、心象について~」

vol. 58 <sup>96th</sup> 2005.8.26

フリーランスデザイナー  
道田 健氏

テーマ  
「先入観とデザイン」



## DDA・JCD・SDA合同チャリティ絵馬展

新春吉例の第26回DDA・SDA・JCD合同チャリティ絵馬展がOAPタワー1Fエントランスホールにて、1月11日(水)～17日(火)の一週間の期間で開催されました。JCD関係では、関西会員をはじめ関係者の作品が127点展示されました。

例年より会場の都合で期間が短縮され、休日が減り、来場者数並びに応札件数が減少するのではないかと懸念しておりましたが、結果は来場者数もほぼ前年並みの1,000名前後。155件の応札があり、落札数は88点。約70%の高率でした。最高額で落札されたのはJCD関西OBの岡修作さんの作品(写真)です。近年の傾向として風景画が比較的好評のようです。

義援金は後日大阪府福祉基金に寄付されます。出展いただいた方々、会場当番をしていただいた方々はじめ、多くの方のご協力に感謝します。

交流委員会 市川 邦治

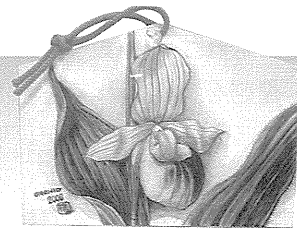


会場風景

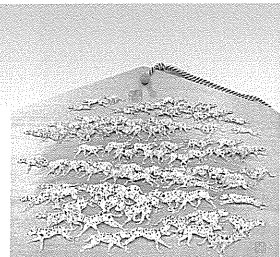
### 主な作品紹介



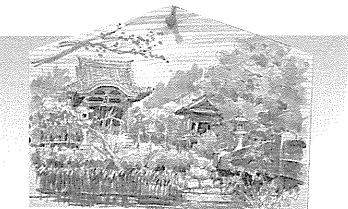
会員 長尾孝雄さんの作品



会員 三宅雅夫さんの作品



るるぶ会 前川弘さんの作品



会員OB 岡修作さんの作品

## 紅葉のるるぶ会 (11月19日～20日) —越前海岸・永平寺探訪スケッチの旅に参加して—



春秋の行楽シーズンに行われる、るるぶ会のスケッチの旅は、私のもう一つの楽しみであるマラソン大会と重なることが多く、今まで一度も参加できないままでしたが、今回ようやく参加することができました。

越前丸岡城には昼前に到着し、食事の前に城内を見学。現存する最古の天守閣をスケッチにおさめ始めると間もなく、あいにくの雨が降りだし、急遽「一筆啓上茶屋」へかけ込み昼食。

午後は重要文化財の江戸時代初期の民家「千古の家」をカメラにおさめ、一路、曹洞宗大本山永平寺へ。千古の家あたりでは本降りだった雨も上がり、数多くの参拝客と美しい紅葉の七堂伽藍を見学。宿泊先の越前海岸、呼鳥門近くの越前シーサイドホテルでは、カニのフルコースでの大宴会。これが主目的で参加した私は、大満足の料理とお酒でした。

翌日は天候にも恵まれ、三方五湖を見下ろしてのスケッチは全員本気モードでしたが、秋の海辺の高台はやっぱり風が冷たく、そこで切り上げ帰路につきました。

秋真っ盛りの北陸路、皆さんと共に楽しい二日間でした。

白井 進

## 日本の空間デザイン展

2005年12月15日から20日まで、ATCの大阪デザイン振興プラザ・デザインギャラリーで「日本の空間デザイン2005」が、大阪デザイン振興プラザとJID、SDA、DDA、KIPAにJCDとの共催で開催され、会場では例年通りJCD、JID、SDA、DDA、KIPAの各デザイン賞の入賞パネル作品展示が行われた。

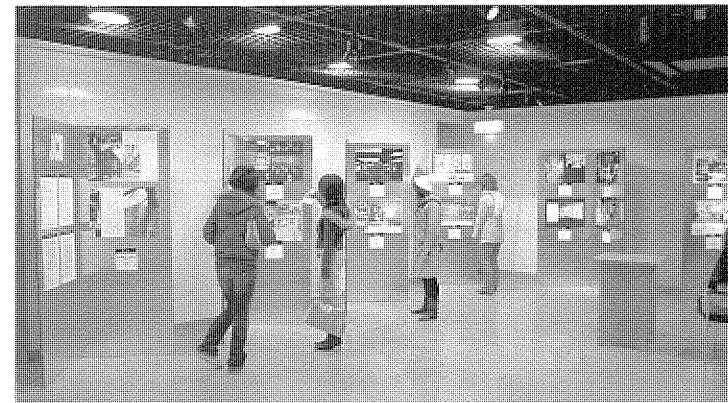
開催に先立ち設営終了後、参加団体の親睦を兼ねてオープニング記念パーティーが開催され、大阪デザインセンター志賀専務理事、USD-O西尾名誉会長、同羽原副会長、関西デザインオフィスユニオン沢村専務理事の各氏が来賓挨拶の後、主催者側からアジア太平洋トレードセンター谷垣

マネージャーのご挨拶でパーティーの幕は開けた。

パーティー参加者は60名程度でデザイン5団体を中心としたメンバーとの親睦とデザイン論議で各テーブルが賑わった。またJID-ACTの学生さんを中心とした若い世代の参加もあり、「これからの大阪のデザイン」についても世代、組織を超えて老若男女でデザイン談義に花が咲いた有意義な集いであった。

白井支部長から関西を基盤とするデザイン5団体の結束と来年よりランクアップした企画を誓って締めとし、JCD研究委員会が企画運営したパーティーを締めくくった。

交流委員会 市川 邦治



## JCD/DAIKO連続デザインシンポジウム SECTION39 OSAKA

コミュニケーション委員会の企画による、恒例のJCD/DAIKO連続デザインシンポジウムが、2月21日東京・丸の内会館において開催されたSECTION38に引き続き、2月23日に大阪市中央公会堂において開催された。

テーマは東京と同じ「それぞれのデザイン〜ベンチでトーク〜」ベンチに腰掛けてのシンポジウムは、バスの停留所で待っている間、トークに花を咲かせる雰囲気約2時間にわたって話し合った。

デザイン評論家の山本雅也氏、乃村工藝社デザインディレクターの小坂竜氏、nendo代表の佐藤オオキ氏の三氏をパネリストに、間宮吉彦氏をコーディネーターに自作の紹介からデザインの現場で起きるさまざまな出来事についてユーモアを交えて話した。

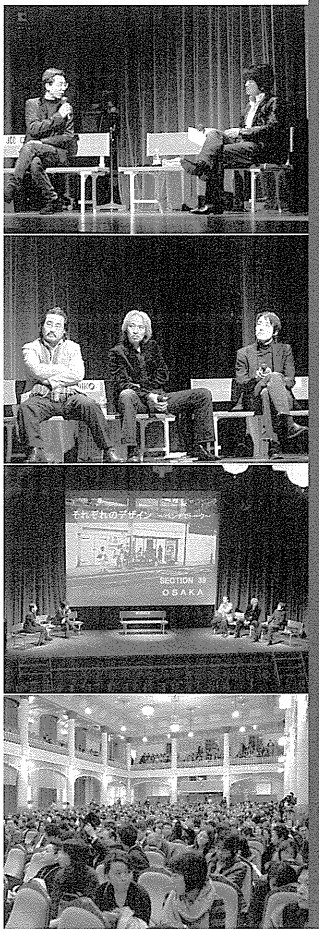
山本氏は自著の「インハウスデザイナーは蔑称か」の執筆を例に、デザインを通じて社会を変えていくデザインの凄さを多くの方に知っていただくのが、デザインジャーナリストの私の仕事と語った。小坂氏は企業内デザイナーで居続ける一つの理由として「企業内デザイナーはデザ

インに没頭でき、独立すると本来のデザイン以外に経営などしなければならず、企業内で仕事をすることが私には向いている」と語った。

佐藤氏は企業に一切属さず大学を卒業後すぐに仲間とnendoを結成。「最初のメンバーに「広報担当」を設け、自作を発信し続ける新しいデザインビジネスモデルを構築した。」と語り、従来のデザイナーとは一線を画する柔らかい発想を見せた。途中スペシャルパネリストとして登場した建築家關聡志氏は、高松伸という大建築家の弟子として徒弟制度の典型的な形で学び独立した経緯を佐藤氏の経歴にかぶせ「羨ましい」と言わせるほどであった。コーディネーターの間宮氏が最後にそれぞれのデザインをまとめ、700名を超える聴衆に語りかけた。

なお今回、パーティー参加者に「パキスタン地震緊急支援募金」を行い、172,259円の寄付金を募り、東京会場分と合わせて、334,834円をJCD白井支部長とDAIKO中尾がユニセフ大阪支部に持参、受領いただき、パキスタン地震に苦しむ子供達のために役立てていただくことになった。

中尾晋也





クリスマスパーティを開催

交流委員会 萱野 光一

恒例になっている、クリスマスパーティーが12月6日、OBPにあるモントレグループのラ・スールというホテルの宴会場で盛大に開催されました。

大阪市内で、明治建築や、大正ロマンの漂うクラシックな建築空間でのパーティーを今まで行ってきましたが、現存している建造物での宴会がひととおり終え、今回は、久しぶりに新築現場で見学会をかねてのパーティーを行いました。

いつもなら65名前後のところ、当日飛び込みも含め90名近くの方が参加してくれました。

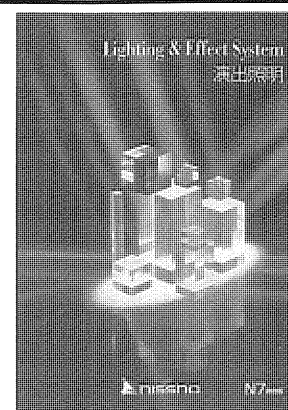
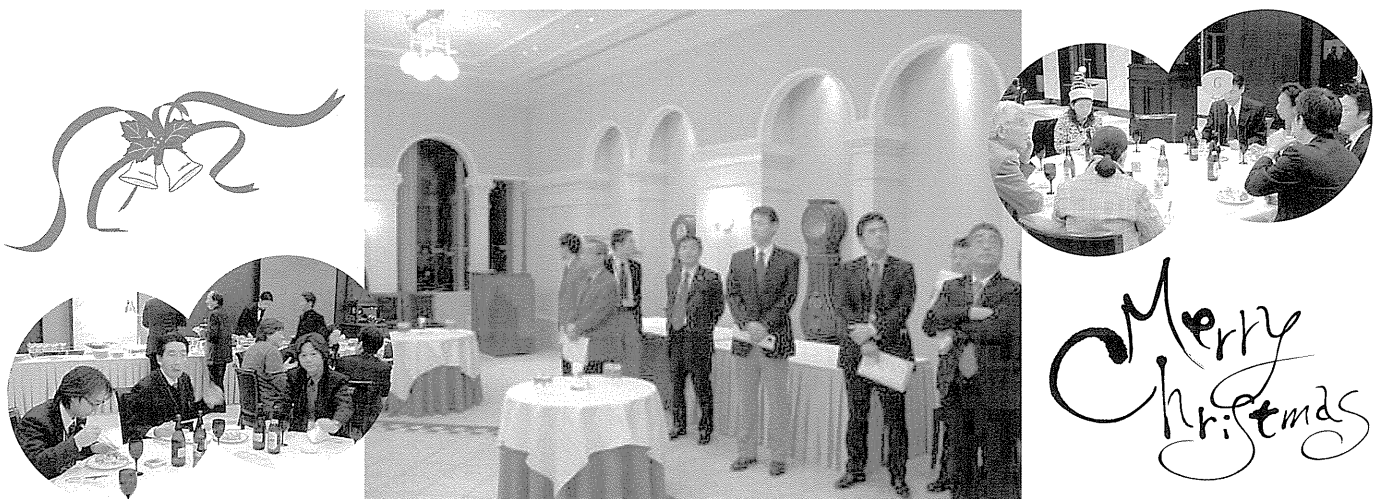
見学会は5時半から宴会までの1時間という短い時間に、鹿島建設、設計部奥山氏、インテリア設計小野氏の両氏に、主要なところを案内して頂きました。

ホテル内には温泉もあり、ロビーや、チャペル、宴会場、客室など見学するには時間が短すぎて、見学会は物足りなさを感じられたと思います。

会場は200名近く入れる宴会場を借りることができ、各方面に声をかけた関係上思いもよらぬ人数に、交流委員の名札入れを参加者に回さなければならなくなり、クイズでの景品を急遽増やすという、うれしいハプニング続きでした。

ただ、我々で対応できる分はよいが、事前に予約していた食事については、当日に参加者が増えすぎて、予約していた食事内容では量が少なすぎたと感じられた。

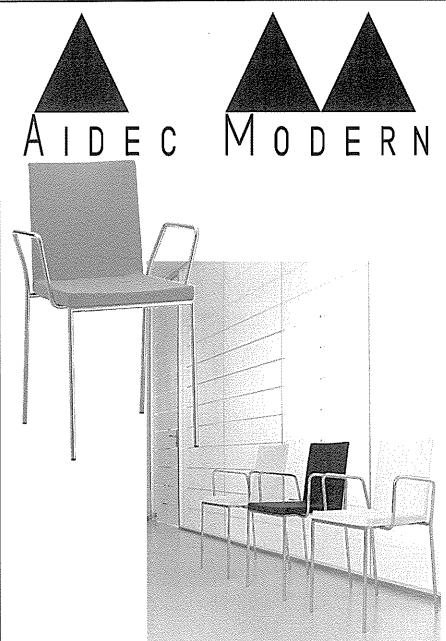
当日の人数が、予想以上になった時の対応を今後どうしていくか反省材料として考えていかなければと思う。



小さなスペースでもパワーを発揮する、コンパクト設計の本格派。  
 組み合わせは自由自在。ご予算レイアウトに合わせてシステムアップも思いのまま。  
 操作はやさしく、施工も簡単。プロ並の照明が手軽に実現できます。

株式会社 日照

〒566-0035 大阪府摂津市鶴野3丁目8番7号  
 TEL 072-634-1231(代) FAX 072-634-1239  
 E-mail:info@nissho-osk.co.jp http://www.nissho-osk.co.jp



株式会社 アイデック  
 〒550-0013大阪府西淀川区新町1-10-2  
 大阪産業ビル/大阪ショールーム  
 tel 06-6534-0258  
 fax 06-6532-4876  
 URL:http://www.aidec.jp

WOODLINE

木目調・石目調ホモジニアスビニル床タイル  
 ウッドライン5000  
 ウッドライン3000  
 マティル5000  
 マティル3000

2004年新色発売

圧倒的な色数を誇るベストセラー。  
 ハイグレードな商空間を演出いたします。



株式会社タジマ  
 〒550-0003 大阪市西区京町堀1-10-5  
 TEL06-6441-5951 FAX06-6444-2596  
 http://www.tajima-inc.co.jp

Needs & News

やすらぎを演出する色彩と深みのあるテクスチャー。  
 ナチュラルからモダンなテイストまで。

グラフィックタイルカーペット GXシリーズ

高いデザイン性と、豊富なバリエーション。商空間へ彩りを添えます。  
 バリエーションは、12種類。  
 その他に空間構成にかかせない無地タイプ26色のカラーパレットGX200もあります。

MATIL TOI 東リ株式会社  
 (URL) http://www.toli.co.jp

編集後記

- 思い出せば私が編集長だった1992年第30号から、歴代の委員が受け継いで、それからもう14年。支部の機関誌をここまで持続できるのはすごいこと。三嶽委員長、委員の皆様、本当にご苦労様でした。(里吉)
- 文章が苦手、しかもやったことのない DTPに興味だけで広報委員会に参加、大変勉強させていただきました。皆さんのおかげで何とか役目を終えることが出来ました。(三宅)
- 三嶽委員長を始め友田・岡島・寺井副委員長・各委員の皆さんのグッドチームワークで編集、皆さんご苦労様でした。私は欠席多く、懺悔文です!(久保)
- 「これで商店街は蘇るか?」がようやく2年間の総括としてまとめ、終えることが出来ました。今はただホットしています。(岡島)
- 委員長を始め皆様、2年間本当にお疲れ様でした。半ばから長町女史の参画もあり、場を賑わせて頂きました。今期はあまりご協力できませず、大いに反省しております。(友田)
- 「JCDと私」を書いて驚いた。もう入会して8年にもなるのかと。これからも、ぼちぼち活動しながら交流を深めていきたいと思う。今後ともよろしく願います。(寺井)
- 今回より初参加。編集委員の活躍勉強になりました。微力ながらがんばります。(日又)
- JCD Kansaiの2年4回の発行を終え、出来たこと出来ないこと、いろいろですが、ようやくという感じです。JCD kansaiの歴史を見ると驚くばかりですが、その軌跡の一部になったことを光榮に思っています。(三嶽)



# Needs & News



●いいインテリアのある場所には、いい生活がある。  
壁紙・カーテン・床材・イス生地・・・  
サンゲツなら、たくさんの商品の中からお気に入りのインテリアがトータルに揃います。  
さあ、あなたも素敵なお部屋づくりはじめてみませんか。

株式会社サンゲツ ホームページ <http://www.sangetsu.co.jp>

- 本社/名古屋店 TEL.052-564-3111 ●東京ショールーム TEL.03-3505-3300
- 名古屋ショールーム TEL.052-564-3225 ●大阪ショールーム TEL.06-6440-5011

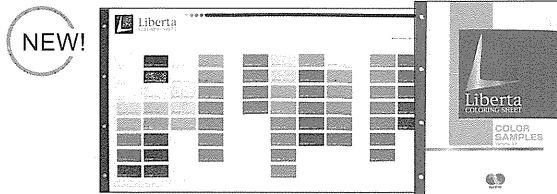
## 商業空間の演出に、ブランドイメージの定着に……ニチエのマーキングフィルム

高品質・低価格を実現!



屋外5年耐候 大幅増色 全96色

新色登場!豊富なカラーバリエーションでデザインに差をつける!  
ご要望の多いパステル調の新色をはじめ使いやすい人気色を  
新たにラインナップ。デザインの幅が広がります。

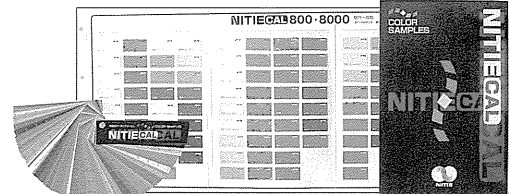


高品位マーキングフィルム。



充実のラインナップでニーズに応える高品位マーキングフィルム。

- No.800・8000シリーズ** 屋外5年耐候一般色  
・全136色
- No.6600・6700シリーズ** 屋外5年耐候電飾用  
・NC6600 半透明 38色  
・NC6700 透明 29色



■製品に関するお問い合わせ、カタログ請求等は下記の弊社営業部まで、お気軽にお問い合わせください。

**ニチエ株式会社** 大阪本社 〒532-0033 大阪市淀川区新高1-6-28 TEL06-6399-6601 FAX06-6399-7501  
東京営業所 〒162-0044 東京都新宿区喜久井町19 TEL03-3202-5481 FAX03-3203-6735

<http://www.nitie.co.jp>



Wonderful  
the happy spaces!

「光」は形となって生まれる空間。  
「光」は思い、時を過ごす人々。  
そこに必要なものは、五感に響く光。  
今年も私たちは、そのことを思い描きながら、  
新しいあかりをつくり、お届けしていきます。

MF7196-48

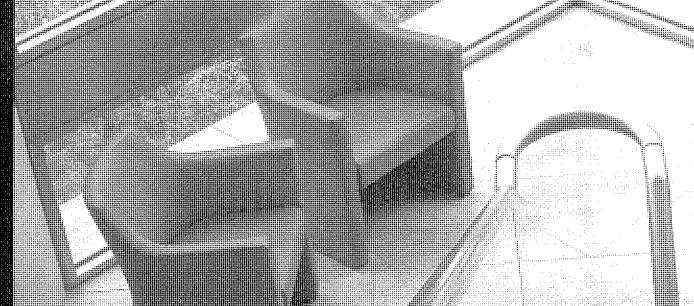
店舗照明の専門メーカー  
**マックスレイ株式会社**  
大阪市城東区嶋野西2-18-6 〒536-0014  
TEL.06-6967-0140 FAX.06-6962-5988  
ホームページ <http://www.maxray.co.jp>



MAXRAYは、「光と空間の調和」をテーマに活動  
する企業として、地球環境保全を念頭に事業を展  
開しています。  
2005年12月には、環境マネジメントシステム  
ISO14001を認証取得いたしました。

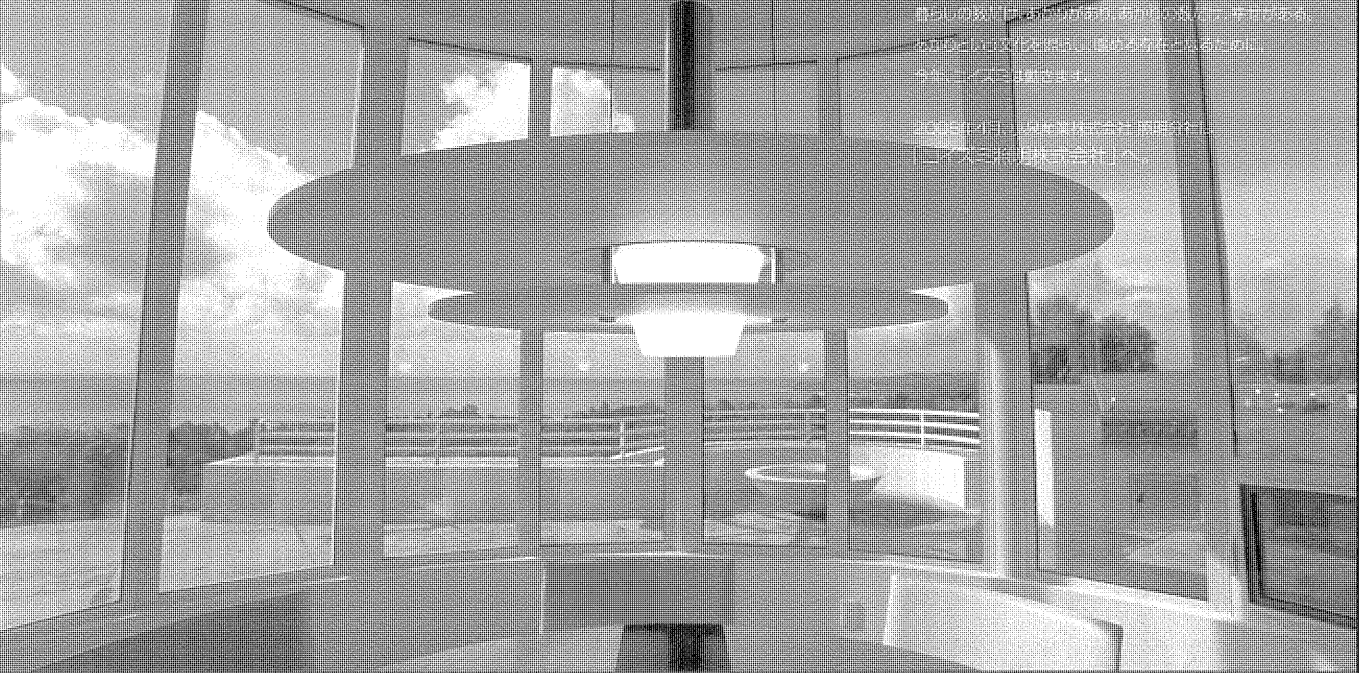
東京 03-3791-2711 大阪 06-6967-0123 名古屋 052-252-9556 福岡 092-431-7824

## それは、あなたの感覚と調和する。 Design Conscious



株式会社キノシタ  
<http://www.kk-kinoshita.co.jp/>

- 本社・ショールーム 〒556-0005 大阪市東淀川区日本橋4丁目9-22  
Tel.06(6844)5541(代) Fax.06(6844)5544-5563
- 東京支店 〒114-0014 東京都北区板橋1丁目11番1号東武ビル1階  
Tel.03(5685)6401(代) Fax.03(5685)6402
- 名古屋営業所 〒458-0035 名古屋市中区錦2丁目254  
Tel.052(624)6660(代) Fax.052(624)6662
- 出張工場 〒693-0043 鳥取県出雲市長浜町516-45  
Tel.0853(28)0311(代) Fax.0853(28)0450



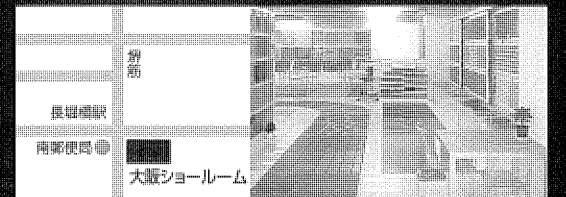
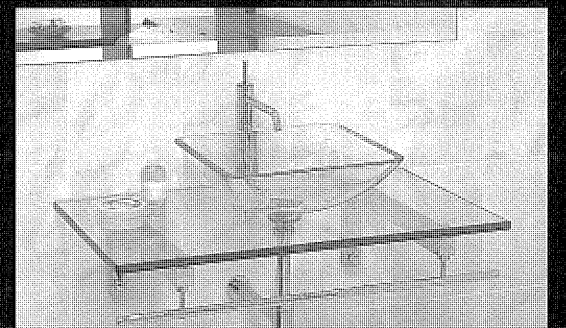
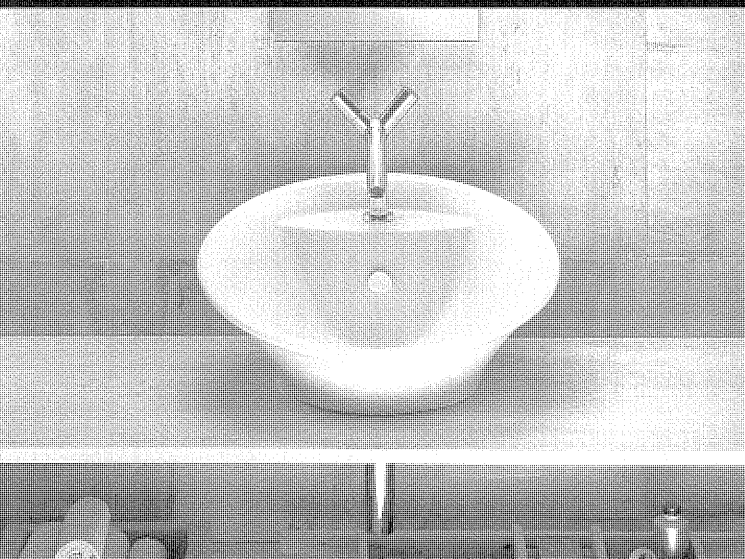
「あかり」の明日を、明るくします。

暮らしの喜びは、あかりが、あかりの光です。喜びがある。  
あかりの光は、あかりの光です。あかりの光は、あかりの光です。  
あかりの光は、あかりの光です。

2005年4月、株式会社キノシタと共同で「コイズミ照明株式会社」へ。

小泉産業株式会社 照明分社 大阪市中央区南船場1丁目3-7 〒544-0051 東京支社 東京都千代田区神田佐久間町3-12 01-0025 <http://www.koizumi.co.jp/>

アドヴァンのショールームは、選りすぐった「良いものを世界から」集め、  
ハイセンスな商品約5,000点を常時展示しています。  
プロの設計士はもちろん、インテリアコーディネーターや一般の人まで、  
あらゆる分野の方からご利用いただいています。  
ぜひ一度ご来店の上、実物に触れてみてください。



大阪ショールーム  
〒542-0082 大阪市中央区鶴之内1-21-22共通ビル  
TEL.06(6245)0975(代) FAX.06(6245)0976

<http://www.advan.co.jp/>  
**ADVAN** 株式会社アドヴァン





株式会社巧インテリア設計事務所  
 〒939-1352  
 富山県石川市吉丸127-1  
 エスデビル内  
 TEL: 0763-33-1112  
 FAX: 0763-33-1980  
 E-mail: kktakumi@01.coralnet.or.jp  
 URL: <http://www.coralnet.or.jp/kktakumi/>  
 JCD北陸支店 支部長  
 好きなこと山歩き(岩登り、山採集)、読書

富山湾は、不思議な海です。

春から初夏にかけて、「蜃気楼」が現れます。富山県ならではの幻想的な現象です。

万年雪を頂く立山連邦から一気に流れ落ちる雪解け水で冷えた海面に、春の暖かい空気が流れこみ、大気中で光が屈折した時に、起こると言われています。

この「蜃気楼」が出現する頃になると、「ほたるいか」が夜の海に発光しながら群遊します。

「ほたるいか」は、200~250mの深い海に生息する生物ですが、この時期、産卵の為に海岸近くまで群れてくるのです。以前は近くの海岸でも網で簡単にすくえる程、群集していました。又、漁獲の対象になるほど、群集しているのもここ富山湾だけです。

夜明け前の暗い海面で網の中で、うごめきながら発光する様は、実に神秘的です。

その神秘的な美しさは富山の晩春の風物詩です。

その魅力もさる事ながら、「ほたるいか」の味覚もまた格別です。

富山の人は、その不思議な生物、「ほたるいか」を「龍宮そうめん」と呼ばれる刺身や酢味噌あえなどにして食しています。最近では、新鮮なものが手に入る為、しゃぶしゃぶ等の料理も増えています。

その他にも、富山湾では、「しろえび」「げんげ(おきひいろぎ)」「ばい貝」など、地元の人々がことのほか、めです魚介類の良い漁場として知られています。

富山湾の海底斜面は、深い谷(海底谷)が数多く刻まれた独特の地形をしており、中でも湾奥部では沿岸から急激に深くなっているところが多く見られます。このように海岸近くまで海底谷が迫った海域は、周囲に比べて海の青さが一段と濃く見えるため、「あいがめ(藍瓶)」と呼ばれております。その「あいがめ」にしか、生息しない「しろえび」は、世界的にも珍しいえびです。この30~45mmほどの透明なえびを、かき揚げ、酢の物、そうめんのだし等に使用します。

また、定置網の日本三大発祥地の一つである富山湾の水見では、ぶり漁が本場です。

今の時期は、「空に雷 太鼓をたたきや 山は霰(あられ)に 海は鰯(ぶり)」と昔から、歌われています。冬の荒れ模様の中、海が荒れ様を、「ぶりおこし」と言います。

冬の低気圧が強い向岸流をおこし、雷が鳴り、海が荒れると、ぶりの群れが岸におし寄せます。

外界は寒いが浜は熱気だつとされている、今こそが「ぶり」のおいしいシーズンです。

富山湾は、寒流と暖流がちょうど出会う海であり、対馬海流が北上して来る事で「ぶり」がとれるのです。勿論、「マグロ」も上がります。

富山湾は、新鮮な海の幸の宝庫であり、天然の「いけす」でもあります。

又、富山県には、東にそびえる立山連邦があります。そこから、山々の源として、清々とした水が流れ出ています。その水が、県内の至る所で、湧き出ています。その湧き水の質の良さは、富山の誇りでもあります。その良質な水でつくられる富山の地酒は、淡麗辛口から、力強い秀逸な濃醇甘口まで様々です。

その中から、代表的な「酒」をいくつか紹介致します。立山酒造の酒、その名も「立山」です。立山酒造は歴史の古く、文久元年(1861年)創業です。県外にはあまり出荷しない為に、幻の酒と言われており、通好みの辛口のものとしても有名です。特に「大吟醸 連峰」は香り、味と共にくせがなく洗練されています。また、この立山酒造のお酒はどれを飲んでも、富山の雄の風格を持っているお酒としても有名です。

他にも、「三笑楽」が上げられます。合掌造り集落が世界遺産に指定され、俄に脚光を浴びている五箇山の静寂な環境に、三笑楽酒造はあります。まろやかで柔らかい味のお酒は、優しさを感じさせてくれ、男女を問わず幅広い方々から愛されています。しかし、「地元の人々に愛されて頂ければ十分幸せ」という気持ちで、「村の酒」というスタンスを崩さず、手造りのお酒を造っている為、毎年味が違うのもまた面白くもあります。たらの芽の天ぷら、岩魚の骨酒等、山の味覚を、「三笑楽」で舌鼓を打ち、四季折々に山の味覚を味わうもの格別です。

古くは北前船の基地として賑わった港町に、「満寿泉」の蔵元があります。四天王と言われる名人の能登杜氏によって造られる吟醸酒「寿」は絶品です。洋梨を口に含んだ様な品の良さは、個性的な純米の深い味わいは本醸造ならではのです。

富山の魚介類に、しっかりと馴染む酒は、まだまだあります。

冬の夜長を、こたつに入り、雪見酒を楽しむには、今が一番です。

是非、冬の富山へお越しください!

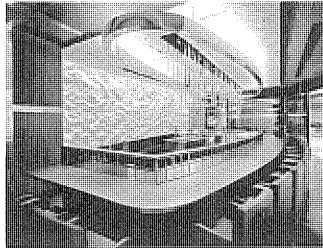
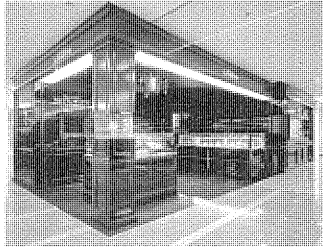
睦月

## 新入会員紹介

### 東 潤一郎



東 潤一郎



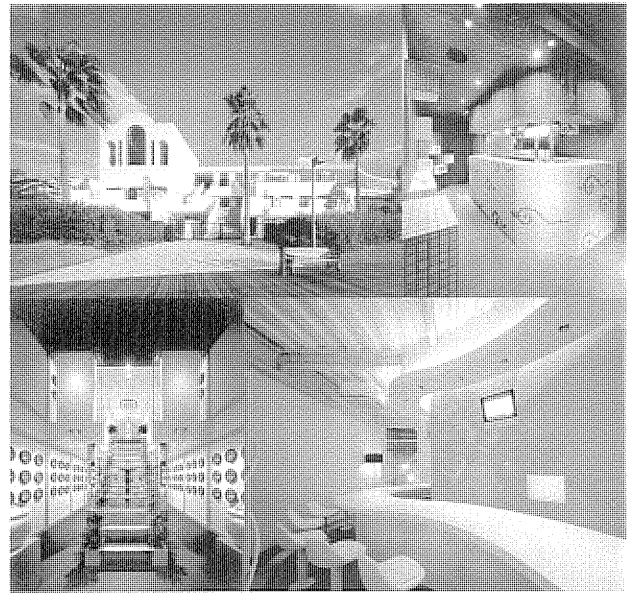
この度JCDに入会させていただきました  
JA laboratoryを  
(ジェイ・エー・ラボラトリー)

主宰しております東です。  
私もまだまだ勉強不足ですので、  
入会を機に、諸先輩方と  
交流させていただき、  
より多くの事を  
学びたいと思っております。  
今後とも、皆さまのご指導、  
ご鞭撻の程  
よろしくお願ひ致します。

JA laboratory  
(ジェイ・エー・ラボラトリー)

〒530-0005 大阪市北区中之島3-6-32ダイビル135A  
phone 06-6449-3801 / fax 06-6449-3812  
e-mail: junazu@ja-labo.jp / homepage http://www.ja-labo.jp

### 荒井 弘



左上: Rivage Blanc / チャペル 右上: うづら / 立呑み屋 左下: オーグリー / メガネストア 右下: LIQUID BAR KYU

この度、ご縁があってJCDに入会させていただきました、アライ企画の荒井です。  
京都を拠点に全国で、店舗や住宅をデザインさせていただいております。  
私自身、まだまだ未熟者ですが、JCDの活動を通じて少しでも多くの事を学び取り、  
新たなチャレンジをしていきたいと考えております。  
どうぞ宜しくお願い致します。

February . 2006



株式会社 アライ企画 代表取締役 荒井 弘  
京都市中京区麩屋町御池上ル上白山町239  
TEL 075-213-7496 FAX 075-213-7498  
info@araiikaku.com www.araiikaku.com

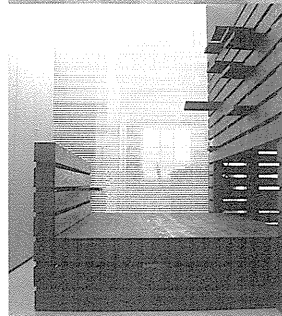
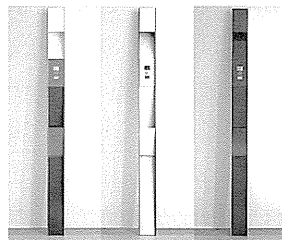
### 児玉 和之



FAIR  
EC-001  
ENTRANCE PANEL  
145 x 2035 x 95

MARUTAMA  
BUILDING  
REMODELING  
PROJECT #1

JCDデザイン賞2004で新人賞を  
頂き、それがきっかけで入会させ  
て頂きました。現在、建築・インテリア・  
プロダクト等の設計活動をしており  
ます。今回JCD入会を機に自分  
の軸となるものを探求し、設計  
に反映できればと考えています。  
今後とも精進していきたいと思  
いますので宜しくお願い致します。



児玉株式会社

http://www.kodama-rh.jp  
〒542-0012 大阪市中央区安堂寺町17-5-8  
TEL: 06-6762-5839 FAX: 06-6764-7350  
E-mail: kazuyuki.kodama@kodama-boss.jp

### 清水 勝



清水 勝  
1972年 大阪生まれ  
宇宙計画有限公司  
代表取締役  
インテリアデザイナー

デザインが「モノ」から「コト」に変容している  
ことについては、経産省の報告(デザイン政策  
ハンドブック2005)にあります。日々、実務に取り  
組む私にはこのことに関しては肌で感じています。  
また、みなさんも同じく思われているのではないで  
しょうか。

世の中の枠組みが変容しているのみならず、  
デザインを取り囲む規範性の再構築についても、  
このことで垣間見ることができました。

このように、たとえ時代が変わっても、デザインは  
人と人を結びつけ、幸せの享受が可能となる  
思想であって欲しいと願っています。



GRAND MONDE CLASSY KITASHINCHI

宇宙計画有限公司  
〒542-0061 大阪市中央区安堂寺町2-3-16 宇宙計画flat 2F  
TEL 06-6765-2727 FAX 06-6765-2726  
HP http://www.uko.jp e-mail shimizu@uko.jp



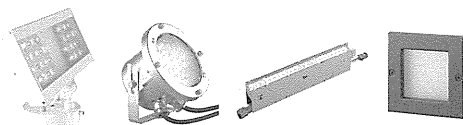
# National

音や映像とダイナミックに連動。  
LEDフルカラー・イルミネーション。



なんばパークス 商業棟 パークスムーン(大阪市浪速区)  
屋外庭園と大規模商業ビルが融合した「ミナミ」の新名所。RGBの制御だけではなく音楽と連動したLEDフルカラー演出をトータルプロデュース。ランドマークにふさわしい「夜景」を生み出しています  
事業主:南海電気鉄道株式会社・株式会社高島屋  
設計:(株)大林組本店一級建築士事務所/施工:大林組JV

光の3原色—RGBを自在に制御し、フルカラーで演出。近景から遠景まで、色鮮やかなLED照明をトータルにご提案します。RGBすべての光色の組み合わせで、1670万フルカラーの色彩表現が可能。豊富な器具ラインアップに加え、規模や内容にあわせた照明演出のための制御機器もご用意。長寿命・省エネの次世代照明LEDが、多彩な照明演出をトータルに支援します。



角型投光タイプ 水中タイプ ラインタイプ スクエアタイプ

## カラー演出用LED照明システム 〈アールジービープロ〉 RGB PRO.

\*エバーレッズが受賞しました



**EVERLEDS** LED演出照明をトータルサポートする松下電工のLED照明器具エバーレッズ

専用カタログをご用意しています。ご請求は、〒571-8686 松下電工(株)照明事業分社 マーケティング・デザイン総合部(住所記載不要) TEL.06-6908-1131(大代表)。  
インターネットでより詳しい情報がご覧いただけます。 <http://www.mew.co.jp/Ebox/everleds>

松下電工